

福祉広報 かめおか

発行・亀阜地区社会福祉協議会 第54号



シンポジウム '26 開催



亀阜地区社会福祉協議会 会長 岡部 隆



ご来賓の皆さま

高松市社会福祉大会にて

令和七年十一月二十六日に第六十九回高松市社会福祉大会が、サンポートホール高松（三階大ホール）にて、市内の福祉関係者等が一堂に会し開催されました。多年にわたり高松市の社会福祉の向上に尽力され、多大な功績を残された方々を表彰するとともに、豊かな福祉社会を実現するための共通認識を深め、地域福祉の更なる発展に資することを目的としています。

後半の記念講演では、講師に日本初の片腕義手の看護師 伊藤真波氏をお迎えして「あきらめない心」と題した講演がありました。二十歳の時趣味のバイクで交通事故に遭い右腕を失いながらも、夢をあきらめず「看護師になるための義手」の制作を実現した他、水泳と出会いパラリンピック代表入りを果たすなど、努力し続け夢を叶えているという貴重なお話をいただきました。講演の最後には特殊な義手を使用したバイオリンの演奏もあり、心温まる素敵な音色が会場に響きました。

（高松市社協 飯沼みのりさん）



なごみちゃん



第69回 高松市社会福祉大会



絵手紙交流



私にとつて、絵手紙や対面交流会は、お相手さんと言葉を交わす、とても大切に大好きな時間です。お相手さんから返事を待つ時間やいただいた返事を読む時間など、とてもワクワクしながら過ごしています。対面交流会では一緒に身体を動かしたり、防災に関するゲームをしたりして、楽しすぎるあまり時間が経つのを忘れてしまうほどです。これからも、このような素敵な時間が溢れるように、活動を続けていきたいと思っています。

（香川大学防災士クラブ 勝浦 弓葵さん）

あとがき

最後まで読んでいただきありがとうございます。今年度もさまざまな大きな出来事がありました。大阪・関西万博、クマ被害、女性初首相誕生、コメ高騰、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック等々。皆さんの身近ではいかがだったでしょうか。どのようなことが印象に残っているでしょうか。

今、私の心に深く残っているのは、二月に参加したシンポジウムの中で語られた「ギフト（贈り物）」という言葉です。福祉の本質を改めて気づかせてくれるものでした。支援は決して一方通行ではなく、支える側も笑顔や学び、気づきといった贈り物を受け取っているのだと。インターネットで調べてみると、「福祉におけるギフトは、助ける・助けられるの関係を超え、人としての尊厳を認め合い、互いの人生を豊かにし合うための能動的な行為」とありました。気負うことなく、日々のあいさつやちょっとした気づかいといった小さな贈り合いを重ねながら、安心して暮らせる町を共に育てていきましょう。

編集委員 藤村 由美子

この広報誌は、赤い羽根共同募金の助成により作成しています。

亀阜・児童福祉は今…

ポジティブな声かけで、明るい家庭と地域づくり

シンポジウム'26 開催

二月八日、亀阜校区の教育関係者他多くの方々をお招きし、香川県社会福祉総合センターにおいて、亀阜地区社会福祉協議会主催・亀阜校区青少年健全育成連絡協議会共催のシンポジウムが開催されました。

今年、香川大学医学部小児科医であり、NPO法人親の育ちサポーターがが理事長の鈴木裕美先生による「ポジティブな声かけで、明るい家庭と地域づくり」をテーマとした講演が行われました。

鈴木先生は『とつときのつかえっこ』という絵本を朗読され、現代はデジタル社会の発達によって人と人の関わりが希薄になり、コミュニケーション能力や自己肯定感の低下が起きていることを挙げられました。子どもたちが「迷惑をかけてはいけない」という価値観の中で、自己表現を抑え込み、

孤立してしまう現状を危惧し、自己肯定感を育み健全な成長を促すための「ポジティブフィードバック」の重要性を説かれました。

具体的には、子どもたちの様子を見守り、褒める時はその行動を具体的に褒めること。また、ギバー（人に借しみなく与える人）になることの重要性も強調されました。与えるとは、寄付や献血などの直接的なものだけでなく、話を聴くことや困っている人を助けるなど、様々な形で人と関わることを指します。受け取った人も感謝の気持ち言葉にして伝えることでギバーとなる。そういった関係性を築くことが大事と説かれました。

例えば、落ち込んでいる子どもにも、「どうしたの?」とか「元氣出して」と励ます言葉は、場合によっては逆効果になることもある。失敗しないように結果や行動を批判的にとらえ反省を促すよりも、そこま

で頑張ったことを労い、共感を示すなど傷ついた心に寄り添うことが大事と学びました。

さらに鈴木先生は、自己肯定感を高めるために、自分自身を褒めることも大切であると説かれました。自分が日々の努力を認め、自分自身を肯定的に評価することで、相手に対しても肯定的になれるとのことですので、ギバーになれるよう努力しようと思えました。

講演後の質疑応答では、様々な質問があり、子どもたちだけではなく、高齢者や家族など身近な相手にもポジティブな声かけは有効で、笑顔と寄り添う心が大切とアドバイスくださいました。

本講演は明るい未来を築くためのヒントが詰まった講演でした。外は雪模様で寒い一日でしたが、多くの方に出席賜り盛況のうちに閉会となりました。(谷川・伏見 記)



ポジティブな声かけで、明るい家庭と地域づくり

「とつときのつかえっこ」



香川大学医学部小児科医
NPO法人親の育ちサポーターががわ
理事長 鈴木裕美

本講演では、子どもの健やかな育ちを支えるために、家庭や地域でおとながどのように寄り添えばよいかについてお話ししました。「迷惑をかけた」とことを大切にしている日本の文化は思いやりでもありますが、時に子どもを孤立させてしまう側面があることに触れ、無理のない範囲で「人の役に立つギバーになる」という前向きな姿勢の大切さを共有しました。また、何かをしてもらったときに感謝を伝えることが自分が相手への言葉のギフトであり、自らもギバーとなれることを紹介しました。家庭での支え合いを当たり前にせず、「ありがとう」「助かったよ」と伝えることが明るい家庭を築き、それがやがて温かな地域づくりにつながります。さらに、つい反射的に出てしまいがちな否定的な声かけを見直し、よい点を具体的に伝えるポジティブな声かけが、こどもの安心感や自己肯定感を育むことをお伝えしました。家庭や地域での温かな言葉かけが、こどもを支える力になります。



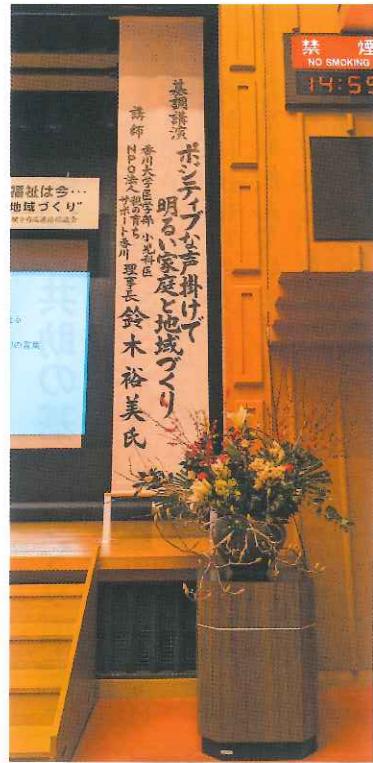
シンポジウムに参加して



高松市民生委員児童委員連盟副会長
同連盟 主任児童委員部会長 小早川 佳乃子

家庭や地域は私たちが生活していく上で支えられ、また支える「居場所」でもあります。今回の講演をお聞きして私が感じたことは、これは子育て中の家庭だけの問題ではなく、生活や健康に不安を持ちながらも社会に生きる我々、全ての人が共通する問題であり、対処法であると思えました。例えば認知症が疑われ、本人も不安に思っているときに、間違いはかりを指摘されたら、その人は益々自信を失い、不安定になるでしょう。出来たこと、出来ることを見つけて感謝したり、褒めることで、表情が明るくなり、穏やかになることは実際よくある事です。褒める、感謝するというのは、その人個人の存在を認め、尊重するという事です。私たちが社会で暮らしていく上で最も大切なベースになるものに違いはないと思います。何気ない「ありがとう」「助かりました」というポジティブな声かけの積み重ねが明るい家庭と地域づくりの土台になるということを今回学ばせていただきました。ありがとうございました。





講師 鈴木裕美様



シンポジウム '26
 “亀阜・児童福祉は今…
 ポジティブな声かけで、
 明るい家庭と地域づくり”

【日時】 令和8年2月8日(日)
 (開場) 13:00
 (講演・質疑応答等) 13:30~15:15

【場 所】 香川県社会福祉総合センター 1階ホール

【基調講演】 『ポジティブな声かけで、明るい家庭と地域づくり』
 ～すこやかな子どもの育ちをめざして～

講演講師： 香川大学医学部 小児科医
 NPO 法人親の育ちサポートかわ理事長
鈴木 裕美 氏

【主催】 亀阜地区社会福祉協議会
 【共催】 亀阜校区青少年健全育成連絡協議会



亀阜校区青少年健全育成連絡協議会
会長 佐々木 英 二 様



質疑応答



「すみません」を「ありがとう」に
言葉一つで変わる心の距離

高松市立紫雲中学校PTA
会長 小八木 雅典

これまで三人の子どもを育てる中で、「人に迷惑をかけるな」と言い聞かせることもありました。核家族が進む現代、手探りで子育てをする親にとつて、自分が受けてきた教育が模範であり、それは受け継がれてきた日本の伝統であると思います。一方で、知らず知らずのうちに自分の「正義」を子どもに押し付け、窮屈な思いをさせていたのではないかとこの「正義」を抱えておりました。

今回の講演を拝聴し、その「迷惑をかけるな」という言葉が、実は自分本位な側面を持っていたことに気づかされました。私自身、子どもが感謝の気持ちを忘れ、他人に頼ることを当たり前だと思っている時にこの言葉を投げかけていただきましたが、それはネガティブな印象として子どもの心に残っていたのかもしれない。講演を通じ、自身の声かけを客観的に見直し、自分の価値観を押し付けるのではなく、相手の立場に立った言葉を選んでいくことの大切さを学びました。

現在、私はPTA会長として『すみません』を『ありがとう』に言い換えよう」というモットーを掲げています。前者は自分の非を詫げる言葉ですが、後者は相手の行動に感謝を伝えるポジティブな言葉です。同じ場面でも言い方ひとつで、受け取る側の気持ちは大きく変わります。まずは私たち大人が言葉をアップデートし、メンバー同士が気持ちよく活動できる場を作ることで、明るい家庭と地域づくりに貢献していきたいと考えています。



シンポジウムに参加して



認定こども園 亀阜幼稚園
園長 金崎 美穂

日頃より、地域の皆様には亀阜幼稚園の教育・保育に温かいご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今回のシンポジウムでは、鈴木裕美先生の講話を拝聴し、これから取り組みたい子育てのヒントをたくさんいただきました。子どもたちをポジティブシャワーで元気にしていくこと、誰かにしてもらうことを当たり前だと思わず、常に感謝の気持ちをもって、逆にも与える側になることなど、教育・保育を行う立場んだことを保護者や教職員と共有し、子どもの表情や言葉から心の声を聴き、「明日も行きたい」と思える明るく楽しい幼稚園づくりに努めたいと思います。とても有意義な時間をありがとうございました。



◇◇ ミニサロン in かめおか ◇◇ 令和7年度活動紹介(抜粋)

地域で孤立しがちな方、外出の機会が少ない方などの交流の場や仲間づくりのため「ミニサロン」を開催しています。今年度も多くの方のご参加ありがとうございました。これからも健康づくり、講習会、物作り、四季を楽しむなど、いろいろな内容で実施していますので、お気軽にご参加ください。

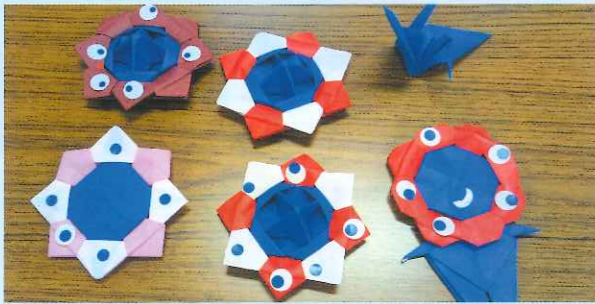
西部 フラワーアレンジメントで家庭に彩りを



東部 懐かしい歌に合わせて元気に体操しました



中央部 万博で大人気のミャクミャクを折り紙で



北部 秋を愛でる一緒に絵手紙作り



中部 秋のコンサート二胡の調べを楽しみました



南部 しめ縄を作って新しい年を迎えましょう



新任の民生委員・児童委員担当地区のお知らせ

氏名	住所	担当地区
竹田 万里子	西宝町二丁目11-16-307	西宝町一丁目8の一部、9~12、17、三丁目4~6
島崎 玉美	西宝町二丁目9-22-101	西宝町一丁目13~16、二丁目8~10
近藤 則明	宮脇町二丁目8-7	宮脇町二丁目7~9、10の一部、11~16
細川 正夫	茜町8-10	茜町15~18、19の一部、20~28
日高 昭美	宮脇町一丁目4-12	宮脇町一丁目3~6、15、22、幸町2
伏見 眞由美	紫雲町1-20	紫雲町、昭和町一丁目12~14、二丁目16
川野 幸子	峰山町1838-194	西宝町二丁目の一部、峰山町、鶴市町の一部
村杉 智美	西町26-2	主任児童委員

☆退任者 高木慎一・森きみ子・波多紀幸・千田豊・木下貞子・菅清子・笠井成子(令和7年11月退任) 民生委員活動ありがとうございました。

地域で共に生きる社会 支え合う地域づくり



亀阜地区社協では、地域共生社会の実現に向けて、誰もが身近な地域で安心して暮らせるよう、地域住民相互の支え合いによる共助の基盤づくりに取り組んでいます。

今年度も、見守りを兼ねた訪問型としてボランティアで作ったちらし寿司・赤飯を持ってひとり暮らし高齢者を訪問しました。高齢者の方からは「気にかけてくれてありがとう」「楽しみにしています」などのお声をかけていただきました。

また、会場ではレクリエーションゲームなどで地域の方々の交流を図り、複合型の活動も実施しています。

亀阜地区の「共助の基盤づくり事業」

令和7年度 共助の基盤づくり事業実施報告

月日	配食地区	配食種類	配食数	調理場所
6月21日	北部	ちらし寿司	69	茜町会館
7月11日	東部・西部	ちらし寿司	138	亀阜コミセン
10月10日	中部	ちらし寿司	140	亀阜コミセン
10月25日	北部・中央部	赤飯	123	茜町会館
11月14日	西部・南部	赤飯	190	亀阜コミセン
1月9日	東部・中部	赤飯	179	亀阜コミセン
3月6日	南部・中央部	ちらし寿司	180	亀阜コミセン



☆ご寄付
高松市赤十字奉仕団亀阜分団様
亀阜地区社会福祉協議会に対し多額のご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。

まるごと福祉相談員へのご相談はこちらへ

高松市社会福祉協議会(本所)

〒760-0066
高松市福岡町二丁目24番10号

相談時間 8:30~17:00 (土・日・祝日 毎週木曜休館)

FAX 087-811-5257

電話 087-811-5888

E-mail takas003@ca.pikara.ne.jp

福祉のお困りごと
まるごと福祉相談員に
ご相談ください